



発行所
熊本日新聞社
〒860-8506
熊本市世安町172
☎代表(096)361-3111
© 熊本日新聞社 2007

6月16日
(土曜日)

東京・大田区池上の住宅街。レンガを張った、落ち着いた外観の三階建てビルが東横システム本社だ。

「今年、創業二十五周年。一月に自社ビルを持ってました」。十三歳で決めた会社経営という初志を貫徹。自前の「城」を築くまでになったが、たたき上げのワンマン経営者といったイメージとはほど遠い。「どの馬の骨とも分らない私に、この指止まれで集まってくれた人たちに感謝しています」と笑みを絶やさない。

ソフトウェア開発の東横システム社長

山崎 孝助さん



「社員は自分の息子、娘」という山崎孝助さん(中央)＝東京都大田区

父親の働く姿を見て事業家への志が芽生えた。父は終戦後、農耕用の馬や牛を農家に卸す仲買人を始め、家族だけでなく戦地から引き揚げてきた親類の面倒もみた。「母や親せきに腹巻きから現金を出して渡す父の姿を見て、子ども心に『事業を起こして人のためになりたいなあ』と想っていました」

決意に変えたという。資金を稼ごうと船乗りを目指し、大学で電波航法を研究。その縁で、人工衛星を使って位置を割り出すGPSを開発中の電機メーカーから誘いを受けた。大学院二年間の学費支給と五年間だけの採用を条件に入社した。

中学一年の時、五人目を身ごもった母が死産の末に他界。「弟と妹の面倒をみなさい」と言い続けた母の死が、長男だった山崎少年の子ども心を

約束通り、GPSを開発。三十歳で完全歩合制の百科事典のセールスマンに転身した。三年半で三千万円を貯め、一九八二年にワープロなどを販売する会社を設立。その会社は今、社員百四十五人を抱え、画像処理や通信機器制御などのソフトウェア開発を手掛ける。

「借金はない。私の生き方に共鳴してくれる人材を探った」。息子や娘として接しているという社員たちには、感謝の心を持ち、顧客との出会いと約束を大切にしよう指導する。景気低迷で

13歳で決めた初志を貫徹

行き詰まる同業者が多い中、順調に成長を遂げた。「古里への恩返し」を計画している。七月八日、津奈木町の町民グラウンドで、知人の古葉竹識・元広島カープ監督らによる子ども野球教室を開く。「自分の人生は『宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える』です」。

◇ (亀井宏二)
◇ 次回は東京都多摩市でフランス料理店を営む豊嶋誠司さん。

|| 月2回掲載

◇やまぎこうすけ 芦北郡津奈木町出身。59歳。八代高 鹿児島大水産学部 大学院修士課程修了。北辰電機製作所(現・横河電機)に入り、GPS開発に携わる。79年に退職、日本版「ブリタニカ国際大百科事典」のセールスマンに。82年に「東横システム」を創業。

首都圏
ネット
くまもと